ひまわり

桶川市青少年健全育成市民会議

第 32 号
平成21年２月１日(年１回発行)
発　行　桶川市青少年健全育成市民会議
編　集　青少年健全育成市民会議
　　広報発行委員会
事務局　桶川市教育委員会生涯学習課
☎７２８－４１１１
✉ shogai@city.okegawa.lg.jp

おかげさまで２０周年

桶川市青少年健全育成市民会議　結成二十周年記念
第二十一回桶川市青少年健全育成市民大会

十一月二十九日（土）、市民ホールにおいて、第二十一回桶川市青少年健全育成市民大会が行われました。今回は青少年健全育成市民会議の二十周年を記念する式典となりました。

オープニングイベントとして桶川西高等学校音楽部の皆さんによる合唱がありました。その心のこもった素直な歌は、会場にさわやかな感動を呼び、二十周年に華を添えました。

その後開会行事に引き続き、市民会議の二十周年のあゆみの紹介がありました。活動の紹介では、二十年間のさまざまな写真もスクリーンに写しだされ、時の流れを感じさせました。最後は「これからも青少年の健全育成に力を尽くします」という力強い決意でしめくくられました。

続いて表彰となりましたが、今年は二十周年記念感謝状が、歴代の運営委員の皆さんに送られました。続いて青少年の育成に功績のあった方々に贈られる健全育成功労賞と「家庭の日」ポスターコンクール、「私たちの主張」作文コンクールの入賞者の表彰が行われました。

【会長挨拶】

本年度より、会長になりました辻本健次郎です。おかげさまで、昭和六十三年に発足した桶川青少年健全育成市民会議は、二十周年を迎えることができました。これまで、多くの方々やたくさんの構成団体にご支援、ご協力いただいたことに感謝申し上げます。

これからも「青少年は地域で守り育てる」という観点に立ち、家庭・学校・地域社会が一体となった取り組みを推進して参ります。今後とも、青少年の健全育成のためにご協力、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

ポスター・作文コンクール

「私たちの主張」作文コンクール　入選者

優秀賞

「本当のバリアフリー」
日出谷小学校五年　漆田　裕

「家族の団らんをめざして」
加納小学校五年　岡本　詩織

「私達の主張」
桶川東中学校一年　林　菜摘

「挨拶の大切さ」
桶川中学校三年　浅野　雄大

佳作

「おばあちゃんがけっこんした」
加納小学校四年　森脇　勇太

「小学生の私に出来ること」
桶川東小学校五年　高橋　美晴

「私の意志と心の支え」
朝日小学校六年　大関　清香

「心のヒーロー」
桶川西中学校二年　石川　崚太

「部活で学んだこと」
加納中学校二年　田村　愛

「大切な「家族」」
桶川西中学校三年　星野まなみ

市内小学校四年生から中学校三年生まで募集をしました。今年は作文コンクールに七四七点、ポスターコンクールに三四八点の応募がありました。

青少年健全育成市民会議 結成二十周年記念 感謝状

桶川市青少年健全育成市民会議結成二十周年を迎え、今まで運営委員として4期8年以上にわたり青少年の健全育成にご尽力いただいた方々に桶川市より感謝状を贈呈しました。（敬称略）

吉野　芳一　〈16年〉
福田　登女子　〈14年〉
松実　義明　〈12年〉
平野　富佐子　〈12年〉
加藤　慶子　〈12年〉
白子　邦　〈9年〉
関口　瑞代　〈8年〉

青少年健全育成功労賞

青少年の育成に顕著な功績のあった方を表彰し、これらの活動をさらに奨励、青少年の健全育成の推進を図ることを目的に行っています。（敬称略）

鴻巣地区保護司会桶川支部
大塚　茂
㈱ガールスカウト日本連盟
埼玉県第47団
計良　久江
桶川市青少年相談員協議会
小宮　忍
桶川サッカースポーツ少年団
高橋　克仁
桶川市子ども会育成連絡協議会
高橋　裕子
IKO剛柔流空手道桶川空手道会
藤井　行徳
日出谷スターズ
松金　保夫
桶川市人権擁護委員会
武藤　文子
桶川イーグルス
山田　浩
桶川地区更生保護女性会
和久津　幸子

「家庭の日」ポスターコンクール 入選者

優秀賞

「楽しい家族」
桶川小学校四年　**森田　美保**

「Family」
桶川東中学校二年　**高須賀杏子**

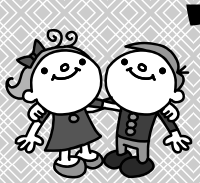
「私の家族です。」
桶川小学校四年　**島田　耀子**

「夏祭りの花火」
桶川東中学校二年　**風間　早彩**

佳作

「家族」
桶川小学校六年　**加藤　瀬奈**
「雷家族」
桶川小学校六年　**松村　直人**
「家族の宝探し」
桶川小学校六年　**武藤　創**
「家族の絆は海より深い」
桶川中学校一年　**瓜本　絵美**
「家族との時間を大切に」
加納中学校一年　**髙橋　美佳**
「EGAO」
桶川東中学校二年　**大原　千尋**

子どもとケータイ事情



～あなたのご家庭ではどのようにお考えですか。～

5月に、桶川市青少年健全育成市民会議総会で「インターネット犯罪等から青少年を守る」と題して講演が行われました。その中でサイバー犯罪の発生件数が年々増え、知らず知らずのうちに犯罪に関与してしまっている青少年の実態を知らされました。今や自分専用の携帯電話を小学生27.3%、中学生53.4%、高校生95.2%が所有しているというデータがあります（2007年内閣府調査）。また、12月には教育再生懇談会や埼玉県が小中学校への携帯電話持込み禁止を打ち出しました。

子どもにとって『携帯電話・ケータイ』はどんな存在なのでしょうか。話すための携帯電話から、情報を取り出すためのインターネットの道具として変わってきたケータイを、どのように扱えばいいのでしょうか。今回このページを編集するにあたり、親子の間でも話題・悩みの種になる携帯電話について、編集委員の意見や身近な体験を出させていただきました。

今、すでにお子さんが携帯電話を持っていても、お持ちじゃなくても、みなさんで、親子で、話して考えてみませんか。

あなたはどなた!?

初めて携帯に迷惑メールが送られてきました。それも夜中の二時に。私のフルネームが正しく書かれていて怖く感じました。すぐに携帯会社の受信拒否をしましたが、違うアドレスから次々に新たなメールが届き、きりがありません。現役ホストや二五〇〇万差し上げます等の内容。更に、自分を写した写メールなんて誰にも送った覚えがないのに、一番最初に目に付いたとの内容もおかしい。入会もしていないのに、退会はこちらからとか、サポートセンター（お問合せ受付）等、まぎらわしい表現がされています。絶対クリックしません。アドレス変更も考えています。

母の気持ち

高校一年生の娘の携帯電話は今、母親の私が預かっている。娘の高校受験が終わった時に、買い与えたものだ。私が、娘に携帯電話を持たせるにあたって、心配なことが二つあった。

一つは、有害サイトの問題だ。最近の携帯電話に関連した様々な事件を見聞きするにつけ、親として子どもを守るために、強い意志でフィルタリングサービスをつけるべき、と常々思っていたので、当然のようにそうした。使ってみると、友達のブログなどが見れない、曲がダウンロードできない等、本人は不満そうだ。

二つ目の心配は、メールの書込みのことだった。面と向かって言いにくいことも、メールでは書けてしまうので、エスカレートして、悪口、誹謗中傷に発展してしまうことが怖い。実際、身近で起きたメールによるいじめも聞いていた。これに関しては、健全な人間関係をつくってほしい、と願うばかりだ。

ところが、この二つ以外の想定外のことが起きた。友だちの紹介で、娘は会ったことのない高校男子とメールするようになり、メールの言葉だけで、たちまち恋に落ちてしまった。その後は実際に会ったり、電話で話したりもしている。彼とのメールに夢中になっている娘に、私の言葉はなかなか伝わらない。まるで、私の横をすり抜けていくような感覚だ。

時々、娘のメールをチェックしてみると、ビックリするような言葉が並んでいる。ルールを守れないので、携帯電話を取り上げたが、そのような低俗な言葉に娘を触れさせたくない、という気持ちも大きい。最善の方法ではないかもしれないが、娘を守るために、私にはそうするしかなかった。

しかし、携帯電話を取り上げられ、暗く、うつろな表情をしている娘を見るのはつらい。

以前のような明るく、いきいきとした笑顔を見たい。そのために、より良い親子関係を築けるよう努力し、その中で、この携帯電話の問題も解決していきたい、と思っている。

子どもを狙う危険な落とし穴

～親に内緒にしていると、万が一危ない時に助けることができない～

文字や映像で人を傷つけたりしてしまう
- 掲示板に友だちの悪口や個人情報を書く
- メールやチャットでケンカをする

人を巧みにだます道具になる
- 顔を隠して相手をだますことができる（なりすまし）

知らないうちに見知らぬ人と悪い仲間になってしまう
- お金をもらう目的で見知らぬ人と会う

子どもにケータイは いりません

お知らせ、連絡などは電話でもよろしいと思いますが、身の上相談、お願い事、約束などは直接お会いして言い交わすべきだと常に自分で言い聞かせています。でないと人と人との関係が益々希薄になってしまいます。よって人の目を見てお話するようにしています。

メルトモ殺人事件や売春行為など、まだ見ぬ相手の電話の声に右往左往し、悩み続ける事ほどナンセンスな事はない。あなたの周りには多くの地域の相談委員をはじめ、先生や友達そして親愛なる家族がすぐそばにいるではありませんか。他人様との交流、会話、協力などを避けていますと後で必ずしっぺ返しが来るものです。

人として必ず通らなければならない「道」は避けられないと思うのです。であるならば「若いときの苦労は買ってでもすべきだ」と考えます。苦労をすればするほど相手が見えてきます。

両親の汗の結晶であるお金で買っていただいた携帯電話を自由に使っていませんか。

先祖に感謝し、お墓参りをしていますか。

以上の事が行えないお子様をお持ちの親御さんはすぐに携帯を取り上げてください。

世界中が不況に成ってきた今日、お子様たちに苦労をさせる絶好のチャンスです。人と物とを大切にする時代が来たようです。

迷宮の入口

わが家では携帯は高校生から。中学生の娘たちは必要な時に私の携帯を使う。それで危険なことはないと思っていた。

しかし、パケット定額制にしたのを機に娘たちは着うたやゲームのサイトにアクセスし始めた。そして間もなく、サイトは迷宮のように一つの入口から様々な部屋に行けてしまうことを思い知らされた。出会い系サイトにも難なく行けてしまう。娘は迷宮の中で友人を作る部屋を見つけ、出会ったことのないメル友とのメールに夢中だ。親の心配を聞く耳はない。携帯を取り上げると今度はパソコンからアクセスする。見守るしかないのだろう。

子どもとケータイ

〝ケータイ〟は現代を生きる人々にはなくてはならない便利なツールです。しかし、使い方を一歩間違えれば、自分の身を危険にさらすものとなることを、しっかり自覚する必要があるでしょう。今や小学校高学年でも高い普及率と聞きます。そのマイナス部分を家庭なり社会なりで子どもたちにきちんと教える機会を作らないと、多くの悲劇や思わぬ事態が身近で起こりえると思います。

一方、確かに現代人は人と関わる能力が低下しているように思います。私達を取り巻く社会環境は大きく変化し、人との関係を希薄にするばかりです。だからこそ敢えて或いは意識して、ケータイ依存症などという言葉が生まれる今、それに対抗する生活を家庭の中に取り込んでいかないといけないと思います。子どもたちが成長していく過程では、もっと体と体・気持ちと気持ちをぶつけ合い、でこぼこした道を何度も何度も転ぶように、泥まみれに格好悪く生きたほうがいいように思います。スマートとは対極の生き方、人間臭い生き方を提唱したいと思います。同時にそんな子ども達を見守ることのできる余裕のある大人たちの存在も重要となると思います。

ネット利用に必要な3つの力

【判断力】
メールなどの情報が正しいか、安全か、使って良いか見分ける力

【自制力】
出会い系サイトなどへアクセスしない、我慢できる、引き返す力

【責任力】
ネットを利用して自分が行った言動で発生したトラブルに対して社会的な責任を負う力

今できる有効な手立て

◎フィルタリングの徹底
◎時間制限
◎親も操作を覚える
◎パスワード等は友だちにも教えない
◎性的なメールは削除する

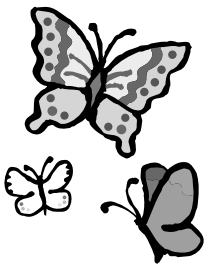
初心者講座のすすめ

小・中学生にとってケータイは必要ではないと思います。

しかし、絶対とは言い切れません。今ケータイをめぐって問題となっている、有害サイトへのアクセス・メールによるいじめ、コミュニケーション能力の低下現象やケータイ依存症などは、子どもが大人と同じ本格ケータイを持つからだと思います。子どもには最低限の機能（GPS、ブザー、指定先通話、親子間メール）のケータイでじゅうぶんです。

本格ケータイは大人になってから。自分で料金が払える、自己責任が持てる人になってからです。

子ども達がケータイを持つときに『ケータイ初心者講座』があるといいですね、使い方だけでなく、ケータイの良い面も悪い面も勉強して、料金のことなど親と子が納得して利用できるように。



こどもとみどりのまつり

五月五日のこどもの日に「こどもとみどりのまつり」が、例年の城山公園から街の中心西口公園へ会場を移して開催されました。

準備段階から、公園面積と混雑による様々なトラブルなど懸念されましたが、かえって会場全体が見渡せ、人と人とのふれあいが身近で感じられ、とても和やかな暖かい雰囲気に包まれていました。

アトラクションでは小針領家獅子舞保存会の子ども達が踊るささら獅子舞に熱い拍手が送られたり、今年初参加の桶川西高校の移動水族館の魚に大勢の人が集まっていました。また、各団体のブースでは、子ども達との微笑ましいやり取りが見受けられ、たくさんの笑顔を見ることができました。まつりに参加した各団体の皆様、たくさんのご協力を頂きありがとうございました。大盛況に終了しました。また来年もぜひ足をお運びください。

桶川市子ども教室

今年も桶川市子ども教室が、七月十七日桶川公民館・十二月二十二日桶川集会所で『おけっ子くらぶ』八月二十・二十一日東公民館で『白黒くらぶ』（子どものための初めての囲碁教室）毎月第三土曜日には朝日小で「あそびっ子！」が開催され、ボランティアの皆さんと子ども達が楽しいひとときを過ごしました。

非行防止キャンペーン

十一月三日（月・祝）、中山道で開催された市民まつりにおいて、多くの構成団体のご協力のもと、非行防止キャンペーンが行われました。

曇り空の少し肌寒い日でしたが、たくさんの親子連れや子ども達で賑わいました。

快くリーフレットを受け取ってくださる人、遠くから笑顔で風船めがけて駆けてくる子、ほんの短いひと時でしたが、温かい心の交流ができました。

子ども達のこの笑顔を守っていきたい、一緒に守っていきましょう、という想いになりました。

親子ふれあいウォーク2008ニ加納

十月十八日（土）、秋晴れに恵まれて教育委員会事務所前には五十五組一二七名の参加者が集まりました。風が冷たく感じられましたが歩き始めれば心地良く、上着を脱ぎ半袖で歩く人も見られました。

地図を見ながらコースに沿って氷川諏訪神社に行き、小針領家獅子舞の道具を見せて頂き、獅子頭の前で家族ごとに記念写真を撮りました。次の目的地わんぱく公園までは、コマ図を見ながらのウォークラリー。クイズに正解して、秘密の設定タイムぴったりに着けば百点満点。コースに沿って足を進め、お昼過ぎには全員無事ゴールしました。

編集後記

広報「ひまわり」を通して、次世代の桶川市の未来を担う青少年の健全な育成を図るためにどのような記事を載せていくのがよいのか、編集会議でそれぞれが意見を出し、話し合いました。

その中で話題となったのが、最近の携帯電話のことでした。

会ったことのない人と、メールの言葉だけでやりとりすることの怖さ。また、中学生、高校生の遊び感覚で、ゲームのサイトにアクセスし、さまざまな危険なサイトに入っていく意識の低さについても、これからの青少年健全育成の立場から、「ひまわり」の読者に知らせておいた方がよいとの意見が出され、**子どもとケータイ事情**として記事が特集されることになりました。

この文章を読んだ人が、少しでも親子で話し合い、人として成長し、健全な人間関係を築くことができるよう願いを込めて編集しました。